

1 議事日程

〔平成18年太宰府市議会 決算特別委員会〕

平成18年9月4日

午前 11 時 00 分

於 全員協議会室

- 日程第1 認定第1号 平成17年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第2 認定第2号 平成17年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第3 認定第3号 平成17年度太宰府市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第4 認定第4号 平成17年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第5 認定第5号 平成17年度筑紫地区介護認定審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第6 認定第6号 平成17年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第7 認定第7号 平成17年度太宰府市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第8 認定第8号 平成17年度太宰府市水道事業会計決算認定について
- 日程第9 認定第9号 平成17年度太宰府市下水道事業会計決算認定について

2 出席委員は次のとおりである(20名)

委員長	武藤哲志	議員	副委員長	安部陽	議員
委員	片井智鶴枝	議員	委員	力丸義行	議員
"	後藤邦晴	議員	"	橋本健	議員
"	中林宗樹	議員	"	門田直樹	議員
"	不老光幸	議員	"	渡邊美穂	議員
"	大田勝義	議員	"	安部啓治	議員
"	山路一恵	議員	"	小柳道枝	議員
"	清水章一	議員	"	佐伯修	議員
"	田川武茂	議員	"	福廣和美	議員
"	岡部茂夫	議員	"	村山弘行	議員

3 欠席委員は次のとおりである

なし

4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名(25名)

市長	佐藤善郎	助役	井上保廣
収入役	松島幹彦	教育長	關敏治
総務部長	平島鉄信	総務部政策統括担当部長	石橋正直

地域振興部長	松田幸夫	地域振興部地域コミュニティ推進担当部長	三笠哲生
市民生活部長	関岡勉	健康福祉部長	永田克人
健康福祉部子育て支援担当部長	村尾昭子	建設部長	富田譲
上下水道部長	古川泰博	教育部長	松永栄人
監査委員事務局長	木村洋	総務課長	松島健二
政策推進課長	宮原仁	財政課長	井上義昭
地域振興課長	大藪勝一	人権・同和政策課長 兼人権センター所長	津田秀司
すこやか長寿課長	木村和美	国保年金課長	木村裕子
建設課長	西山源次	上下水道課長	宮原勝美
教務課長	井上和雄		

5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	白石純一	議事課長	田中利雄
書記	花田敏浩		

開会 午前11時00分

~~~~~

委員長（武藤哲志委員） ただいまから決算特別委員会を開会いたします。

今日は、認定第1号から認定第9号までについて、各所管部長からの説明にとどめたいと思います。

~~~~~

日程第1 認定第1号 平成17年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

委員長（武藤哲志委員） それでは、日程第1、認定第1号「平成17年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

総務部長。

総務部長（平島鉄信） 平成17年度の一般会計歳入歳出決算について説明を申し上げます。

当該年度は、災害復旧の最終年度で、その復旧費及び扶助費、公債費の伸びがあったにもかかわらず、平成16年度の三位一体改革の地方交付税が12%カットされるという大ショックがございまして、その影響が残り、財政調整基金の取り崩しなど歳入不足を補てんするといった厳しい財政状況でございました。しかし、経営の効率化や入札減の確保に努めまして、黒字化することができました。この黒字化につきましては、今日はこの決算書と事務報告書を使いますので、出しておいていただきたいと思えます。

決算書の32ページをめくっていただきたいと思えます。32ページには、実質収支に関する調書というのがありまして、ここに歳入歳出あるいは決算が出ております。

項目の3番目、歳入歳出差引額というのが9億7,500万円ほど出ております。これが黒字決算と先ほど言いました金額でございまして。この中には、4で示しますように、翌年度への繰り越すべき財源、繰越明許費が約2億7,900万円、それから事故繰越し繰越額が約4,900万円、合計しますと3億2,800万円ほどございまして、平成18年度に繰り越して現在使用をしております。それを差し引きますと、実質収支額というのがございまして、これは市長からも先ほど説明がありましたように、6億4,600万円ほどの実質の収支額となりまして、これが現実的な黒字の金額というふうに思っております。これも皆さんのいろいろなご協力のたまものというふうに感謝申し上げます。しかしながら、この金額から4億6,500万円については、もう平成18年度予算に組み込んでおりまして、残り財源はそう多くは残っていないというのが状況でございまして。

それでは、今からは歳入の主な項目について説明を申し上げます。

委員長（武藤哲志委員） 総務部長、事務報告書の2ページ。

まず、普通会計決算の部分がありますが、この数字と今総務部長が説明された数字に、この内容的にどんな状況の差があるのか。まず、歳入部分について218億7,900万円というのがこちらでは218億4,200万円になっておる。歳出がこの部分では、209億300万円がこういう数字の違いがあって、この部分が全部違うわけですが、その収支の関係、一番最後の実質収支はという形では、決算書32ページが6億4,667万2,000円に対して、事務報告書2ページでは6億

3,422万1,000円とこういうふうになっている。だから、こちらの内容とここの内容については、後で説明いただきますように。

総務部長（平島鉄信） じゃ、今もう説明しておきます。

事務報告書の2ページは、一番上に普通会計決算というふうにあります。今委員長さんがおっしゃっていますもう一つの分は、太宰府市の一般会計の決算でございまして、普通会計には住宅改修資金とか普通どこの団体もが入るような会計も入れた形で決算をいたしますので、合併した形で会計を処理するのがこの普通会計ということでございます。なぜ普通会計をするかといいますと、いろんな公共団体には分け方がございまして、全国的に比較する場合に、同じような数字をもって比較をしようという形がございまして、普通会計という決算の仕方があるということでございます。それによりまして、いろんな性質別の部分がございまして、事務報告書ではこの普通会計で皆さんにあらわした数字を示しております。その関係が若干違うということでございます。そういうことを含めながら、お聞きになっていただきたいと思えます。

委員長（武藤哲志委員） 1,000万円の差があるということなんですね。

総務部長（平島鉄信） そうですね。ほかの特別会計を含みますので、あるということでございます。

それじゃ、決算書の35ページをめくっていただきたいと思えます。市税の方でございまして、市税の決算額は収入欄で見ますと、右側の35ページの真ん中辺に収入済額というのがありますが、これが収入をされた金額というふうに見ていただきたいと思えますが、71億3,206万4,000円、説明の関係で1,000円単位で説明してまいりますが、そういう形になっております。前年度と比べますと1億3,352万7,000円、1.9%の増収となっております。

この理由につきましては、事務報告書の4ページをめくっていただきたいと思えます。4ページの上の表の市税決算というのがございますけども、この中には法人市民税、市たばこ税については減収しておりますけども、配偶者特別控除の廃止などがございまして、個人市民税については一番右で言いますと、3.3%ほど伸びております。先ほど言いましたように、これは配偶者の特別控除が廃止されまして、税金が少し高くなったということでございます。

それから、3番目の固定資産税でございまして、これは負担調整率というのがございまして、毎年、年々、一度に上げることができませんので、3年間にわたって上げていくというような制度になってはいますが、そういうふうな形で上がる分と、あるいは区画整理事業内ではやはり建物の新築が多くなっておりまして、そういうことから固定資産税が増額となっております。伸び率が約1.6%という形になっております。

それから次に、決算書の41ページ、地方交付税というのがございます。これについては、35億1,281万4,000円で決算をいたしております。先ほど言いましたように、平成16年度で12%減額をされながら、さらに前年度に比較して1億1,150万円、約3.1%の減少というふうになっております。この内訳については、普通交付税が6,549万7,000円、2.1%の減の30億8,070万

6,000円、特別交付税については4,600万3,000円、9.6%の減という形で、平成17年度は非常に災害が多ございましたので、そちらの方に全国的に配分されたという形になっておりまして、合計で4億3,210万8,000円の特別交付税という形になっております。また、地方一般財源の不足に対処するため、地方交付税の振りかえとして発行いたします臨時財政対策債の借り入れ額は、7億2,430万円という形で、後で出てまいります。交付税で減った分については、そういうふうな起債で賄うという形で、今回予算をつくっております。

それから次に、決算書の53ページ、国庫支出金でございます。国庫支出金については、平成17年度は災害復旧関連の負担金、補助金の減によりまして、前年度より約3億5,898万円の減となっております。決算額は26億1,406万5,000円の決算といたしております。

次に、77ページ、繰入金でございます。平成17年度は、繰上償還のために減債基金を3億400万円、財源不足の補てんといたしまして財政調整資金3億2,143万2,000円など、総額で13億1,547万6,000円の基金の取り崩しを行っております。

その内訳については、事務報告書の10ページを見ていただきたいと思います。平成17年度末の基金全体の残高は、一番下にございますけれども、前年度より12億7,393万円減少いたしまして、21億1,463万1,000円、これはもうすべて特別の基金を入れての金額でございますが、その金額となっております。

なお、普通の貯金と言われております財政調整基金は、6億6,100万円という形までただいま減少をいたしております。

それから、決算書の81ページをめぐっていただきたいと思います。市債についてでございますけれども、福岡地区水道企業団出資金、地域活性化複合施設整備事業、佐野土地区画整理事業、災害復旧事業債などが前年度より大幅に減少いたしております。23億4,510万円の減の26億80万円の借り入れとなっております。借り入れが約26億円で、現在公債費が30億円をちょっと超えておりますので、こういう状況でいけばかなり財政状況が好転するのではないかとというふうに考えて、借り入れ額をかなり抑え込んでおるところでございます。主な内訳については、81ページからの備考欄になりますけれども、土木事業債が約9億円、史跡地公有化事業債が7億円、災害復旧事業債が1億3,300万円、先ほど言いましたように臨時財政対策債が7億2,430万円などとなっております。

なお、現在の市債の現在高の状況ですが、事務報告書の10ページを見ていただきたいと思います。下の表の中に平成17年度末の市債の残高が約247億円という形で載っておりますけれども、前年度より4億3,900万円ほど減少いたしております。この減少の主な原因については、減債基金を取り崩しまして、繰上償還をして今後の負担を少なくしようという形で、平成17年にいたしたところでございます。

以上が歳入でございます。次に歳出についての概要説明をいたします。

88ページをめぐっていただきたいと思います。総務費でございますけれども、総務費では市史編さん事業及び固定資産の評価がえに伴う土地の鑑定評価の委託料の減少によりまして、前年

度より約5,100万円減の支出済みで、23億6,097万9,000円の決算となりました。

それから、3款の132ページに行きます。民生費でございますけども、障害者の支援費、医療扶助費、児童手当の扶助費、介護保険事業の特別会計への繰出金の増加などによりまして約6,600万円の増、43億6,548万1,000円という形になりました。

なお、特別会計の繰出金は、国民健康保険事業特別会計へ3億4,377万円、介護保険事業特別会計へは4億9,885万4,000円、住宅新築資金等貸付事業特別会計へ9万7,000円の繰り出しを行っております。今後も扶助費については、毎年伸びの傾向にあるというふうに考えております。

次に、170ページ、ここは衛生費でございます。衛生費は大野城太宰府環境施設組合の負担金及び福岡地区水道企業団出資金の減少によりまして、前年度より約3億1,160万円の減少というふうになっております。

それから、190ページ、6款の農林水産業費につきましては、農業用排水路の整備工事などが新たに発生いたしまして、約3,424万円増の1億720万9,000円となっております。

それから、204ページに参ります。土木費でございますが、土木費については37億6,871万3,000円の決算となっております。主な事業といたしましては、地区道路整備事業、それから散策路整備事業、それから佐野土地区画整理事業、街路公園整備事業、通古賀地区都市再生整備事業などを実施いたしております。この金額となっております。なお、平成17年度は散策路整備事業費、佐野土地区画整理事業のかなりの事業費が減少いたしまして、決算額は昨年度よりも9,318万2,000円ほど減少をいたしておるところでございます。

それから、234ページに参ります。教育費でございますけども、教育費では太宰府東小学校のプール改修工事や生涯学習施設の用地購入などによりまして、決算額は9,645万円増加をいたしまして、28億1,499万2,000円となっております。

それから、284ページでございます。11款の災害復旧費でございますけども、災害復旧費もほぼ3年間で終わるということによりまして、終息に向かいました。約4億7,800万円の減少、前年度に比しまして減少いたしております。6億9,022万1,000円の決算となりました。ほぼ平成17年度で終わるという形で進んでおります。

最後に、288ページです。公債費でございます。決算額は、34億1,085万円でございます。前年度より10億3,245万円減少いたしておりますけども、この中には昨年度借換債というのを発行いたしまして、これが13億370万円含まれておりましたので、実質は3億円程度の増加というふうになっております。この増加の主な理由については、地域総合整備資金の繰上償還を行ったということでございます。今後は、臨時財政対策債の増発や災害復旧事業債の発行などによりまして、公債費が増加するという事を見込んでおります。その動向に留意しながら、計画的な市債の活用を図っていくとふうに考えております。

次に、この歳出予算を性質別に見てまいりたいと思います。

事務報告書の8ページをめくっていただきたいと思います。その上に性質別歳出決算とい

う表がございます。義務的経費のうち人件費につきましては、平成17年度は国勢調査、衆議院議員選挙等の事業がございまして、時間外手当の増がございましたし、建設業の事業については事業費の支弁人件費がございまして、そこに臨時的な経費で上げておりましたけども、そういうのが減少しまして、約1.0%増加いたしております。扶助費については、支援費あるいは児童手当、生活保護費の増加などによりまして4.0%の増、公債費については先ほど説明いたしましたように、11.8%増加しております。義務的経費の総額では、5.6%増の93億4,210万6,000円の決算となっております。

一方、投資的経費でございますけども、普通建設事業費で区画整理事業や地域活性化複合施設の整備の減少あるいは災害復旧事業の終息によりまして、7億1,457万8,000円、約14.3%と大幅に減少をいたしております。

その他の経費では、国保会計の繰出金など特別会計への繰出金は増加いたしておりますけども、下水道事業会計補助金などの減によりまして、9.6%の減少というふうになりました。

以上で性質別歳出決算の説明を終わらせていただきますが、最後に本市の財政状況について説明をいたしたいと思います。

事務報告書の9ページのグラフを見ていただきますと、財政構造の弾力性を示す指標の一つであります経常収支比率というのがございますけども、これが98.6%でございまして、前年度から0.1%回復をいたしましたけども、依然高い水準にあります。この経常収支の悪化の要因といたしましては、この比率の分母であります市税や普通交付税が三位一体の改革でカットされるなど、経常の一般財源の収入が低迷しているということでございます。この低迷に合わせて、人件費や公債費、扶助費あるいは施設の維持経費など収入に見合った経費に抑えなければならぬというふうな形になりますけども、まだ十分にこれが抑え切れていないということが挙げられるというふうに思います。今後については、これらの経費をかなり抑えるという努力は、必要だろうというふうに考えております。

次に、事務報告書の10ページを見ていただきますと、公債費の状況がそこがございます。公債費比率が18.4%、公債費負担比率が19.2%、起債制限比率が11.8%というふうになっておりまして、少し上昇いたしております。ここ数年、市債の借りかえ、繰上償還など公債費の軽減対策を行ってきたことから改善傾向にございましたけども、佐野土地区画整理事業、散策路整備事業、地域活性化複合施設の建設の事業、災害復旧事業などの市債の増加に加えまして、臨時財政対策債の大量発行により償還が始まった関係で上昇したものでございます。今後も減税の補てん債の償還開始がさらに加わりますので、公債費は増加していくというふうに考えております。

また、現在市債の発行については、平成18年4月から今まで起債については県の許可というふうになっておりましたけども、多少自由化されまして、県の同意というふうになりました。そのために、今回より新たに定められました実質公債費比率という形で今後見ていこうというふうに考えているようでございます。これはどういうことかといいますと、会社で言いますと

子会社も含めた連結決算というのがございますが、そういう形を公共団体にも持ち込もうということで、一般会計、普通会計を限らず、一部事務組合の借金あるいは企業会計の借金も含めた公債費の比率で今後は見ていこうと。要するに、実質の借金はどれだけあるのかという形で見ていこうというふうになったようでございます。この比率が18%を上回りますと、今までのように4月から同意になったものが、同意ではなくて許可という形で今後とも引き続きなっていくというふうになっております。当市では、14.1%ということでございまして、この18%にはまだまだ余裕があるところでございます。先ほどの新聞では、県下では2団体がこれを上回るという形で発表されております。なお、このごろ新聞等で夕張市のように、隠れた借金が明るみに出てまいっておりますけれども、当市はここに記載しております数字以上に明瞭な会計をしております、不明瞭なこういう借金はないというふうに断言してよろしいと思っております。

このように昨今の社会、経済環境の変化や今後予想される財政事情の増大からも、今後も厳しい財政運営は強いられると思っておりますけれども、多様化する市民ニーズにこたえ、総合計画に掲げる各種の施策、事業を着実に実施するためには、内部経費の削減、事務事業の見直しを徹底的に行いまして、健全な財政体質を確立していくというふうに考えております。

以上、一般会計の歳入歳出の決算について概要を説明いたしましたけれども、詳細につきましては配付させていただいております決算書並びに事務報告書、監査意見書等を参考にさせていただければ幸いですというふうに考えております。

以上で説明を終わります。

~~~~~

日程第2 認定第2号 平成17年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第2、認定第2号「平成17年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

健康福祉部長。

健康福祉部長（永田克人） それでは、平成17年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の概要についてご説明申し上げます。

決算書につきましては、293ページからでございます。

歳入決算額につきまして、295ページをお開き願いたいと思います。歳入総額、右から4番目の表でございます。収入済額で54億2,497万9,350円、次に299ページの方に歳出総額54億2,084万2,184円、歳入歳出差し引きで413万7,166円となっております。

なお、前年度の実質収支額と基金繰入金を差し引き、黒字要素であります基金積立金を加算した実質単年度収支では、1億1,370万6,383円の赤字となっております。

次に、歳入の主なものにつきまして、302ページをお願いしたいと思います。まず、1款の国民健康保険税につきまして、決算17億6,141万1,686円ございまして、前年度比2,461万



3,361円、約1.4%の増加となっております。

次に、2款の国庫支出金では、平成17年度からその一部が県支出金に移行しまして、負担率が減少したことから、15億5,214万8,684円となりまして、対前年度比約1.6%、2,524万3,085円の減額となっております。

次に、304ページ、3款の療養給付費交付金でございますが、決算額13億3,348万9,399円で、これは退職被保険者の増加に伴い、約13.6%、1億5,960万7,353円の増額となっております。

次に、4款県支出金では、国庫支出金の一部移行によりまして、2款2項2目県財政調整交付金が1億6,055万円交付されております。

次に、308ページをお願いしたいと思います。7款2項の基金繰入金でございます。収入の不足を補うため1億円を取り崩しいたしまして、繰り入れを行っております。これによりまして、基金残高につきましては、8,448万6,719円となっております。

次に、歳出につきましてでございますが、314ページの2款保険給付費につきまして、決算額36億5,967万2,828円で、対前年度比約9.4%、3億1,539万4,482円の増額で、大幅に増加いたしております。

次に、318ページの3款でございます。老人保健拠出金でございますが、12億2,309万4,778円で、対前年度比約0.6%、685万6,542円の増加となっております。

次に、4款の介護納付金につきましては、介護給付費の伸びに伴いまして、3億2,231万3,600円ということで、これも対前年度比約17.8%、4,864万435円の大幅な増ということでございます。

国保の状況につきましては、被保険者数を見ますと、年度平均総数につきましては2万2,151人で、前年度より約2.1%、457名の増加となっております。そのうち老人保健対象者は192人減の5,679人でございます。

平成17年度の収支は、かろうじて黒字ではありますが、繰越金や基金繰入金を除いた単年度収支は、5年連続の赤字ということで、その額も年々拡大しております。このように、国保財政は依然として厳しく、被保険者の増加と高齢化による医療費の増加に財源となる収入が追いつかない状況が続いております。今後とも被保険者への健康教育や保健事業の推進によりまして、医療費の適正化を図るとともに、収入の確保に努めながら国保財政の安定化に努力したいというふうに考えております。よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

~~~~~

日程第3 認定第3号 平成17年度太宰府市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について
委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第3、認定第3号「平成17年度太宰府市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

同じく、健康福祉部長。

健康福祉部長（永田克人） 次に、平成17年度太宰府市老人保健特別会計歳入歳出決算の概要についてご説明申し上げます。

決算書は327ページからとなっております。

まず、歳入の決算額につきましては、329ページ、歳入総額57億7,316万6,180円で、331ページの歳出総額につきましては、57億9,817万6,108円ということで、歳入歳出差し引きは2,500万9,928円の赤字決算となっております。これにつきましては、国及び県の支出金の年度内交付額が基準より少なかったためということで、この不足額については翌年度に追加交付が行われるということから、平成18年度からの繰上充用で対応をいたしております。

次に、歳入の主なものにつきましては、334ページ、1款でございます。支払基金交付金が負担割合の減少によりまして、34億3,136万9,701円でございます。対前年度比約7.9%、2億9,454万9,395円の減。

次に、2款の国庫支出金と3款県支出金につきましては、負担割合の増加によりまして国庫支出金が対前年度比約10.3%、1億4,261万9,866円の増、県支出金におきましては約4.9%、1,689万1,544円の増となっております。県支出金の増加が少ないものにつきましては、基準額の88%の交付にとどまったというものでございます。

次に、4款の一般会計繰入金も同様に、約7.7%、3,000万2,000円増加いたしております。

次に、歳出につきましては、338ページ、2款の医療諸費でございます。57億2,835万2,497円で、対前年度比約0.6%、3,419万2,020円の減となっております。

医療受給者数の年間平均につきましては6,610人で、前年度に比較しますと289人、4.2%の減となっております。また、1人当たりの年間医療費支給額につきましては、86万3,292円となっておりまして、前年度から3万1,236円、3.8%の増加を見ております。今後とも制度の周知徹底、適正な受診、健康意識の向上に向けた啓発や保健事業などを推進いたしまして、老人保健財政の安定化を図るために引き続き努力してまいりたいと考えております。よろしくご審議いただきますよう、認定賜りますようお願い申し上げます。

~~~~~

日程第4 認定第4号 平成17年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第4、認定第4号「平成17年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

健康福祉部長。

健康福祉部長（永田克人） 平成17年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の概要についてご説明申し上げます。

決算書につきましては、343ページからでございます。

決算書の345ページの歳入総額31億4,583万9,405円に対しまして、347ページの歳出総額につ

きましては30億8,599万3,463円で、歳入歳出差し引き5,984万5,942円となっております。

介護保険制度の場合、サービスにかかった費用の1割は自己負担、あとの9割分のうち50%は40歳からの保険料、残りの50%につきましては国、県、市の財源で負担しておることになっております。

歳入の主なものからご説明申し上げますと、351ページ、1款1項1目の65歳以上の第1号被保険者保険料につきましては、5億6,689万1,347円の収入がございまして、前年度と比較いたしまして1,937万円ほどの増収となっております。また、40歳から64歳までの第2号被保険者保険料につきましては、それぞれの健康保険料と一緒に徴収いたしまして、同ページの3款1項1目の介護給付費交付金9億2,861万5,000円受け入れを行っております。残り50%の公費分のうち国負担分の20%分といたしまして、2款1項1目の介護保険費負担金6億1,169万3,000円、県負担の12.5%分といたしまして、352ページの4款1項1目の介護給付費負担金3億6,569万8,000円、市負担分の12.5%分として6款1項1目の介護給付費繰入金3億6,178万5,077円となっております。

なお、国、県支払基金からの歳入につきましては、年間の介護給付費確定時期の関係から翌年度精算となっております。

平成17年度は、当初事業計画によりまして保険給付費が伸びたことにより、65歳以上の介護保険料負担金の財源不足が懸念されまして、354ページの9款1項1目の財政安定化基金借入金2,400万円を県より借り入れいたしまして、歳入の調整を行っております。

次に、歳出の主なものにつきましては、358ページの1款3項1目の介護認定審査費1,969万8,095円、360ページの2目介護認定調査費2,938万7,098円となっております。

362ページの2款保険給付費についてでございますが、28億9,428万616円で、歳出総額の約93.8%を占めております。

1項の介護サービス等諸費は、要介護1から要介護5まで認定された被保険者がホームヘルプサービスやデイサービスなどの在宅サービスや施設サービスを利用した場合に保険者が負担する9割相当分でございます。27億708万8,620円となっております。

また、364ページの2項支援サービス等諸費は、要支援と認定された被保険者が在宅サービスを利用した場合に保険者が負担する分で、1億2,363万5,719円となっております。

次に、366ページの2款4項高額介護サービス等費につきましては、介護サービスを利用して支払われた自己負担額が一定額を超えた場合に払い戻しをする制度でございます。2,841万5,037円の支出をいたしております。

2款5項の特定入所者介護サービス等費につきましては、低所得者の人の施設利用が困難とならないよう所得に応じた自己負担額を設定し、残りの基準額との差額を納付する制度でございます。3,171万6,120円の支出をいたしております。

また、368ページの3款1項といたしまして、一般会計からの繰り入れを回避し、介護保険財政の安定化を図る目的で、保険給付費の約0.1%相当分として財政安定化基金拠出金283万

8,000円を県に支出いたしております。

次に、4款1項公債費につきましては、介護給付費の伸びによりまして平成13年度、平成14年度に県から借入れを行いました償還金といたしまして、1,608万2,444円を支出いたしております。

以上で説明を終わらせていただきますが、今後とも介護保険事業の適正化に取り組みまして、健全な財政運営を目指して努力してまいりたいと考えております。よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

~~~~~

日程第5 認定第5号 平成17年度筑紫地区介護認定審査会事業特別会計歳入歳出決算認定
について

委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第5、認定第5号「平成17年度筑紫地区介護認定審査会事業特別会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

健康福祉部長。

健康福祉部長（永田克人） 平成17年度筑紫地区介護認定審査会事業特別会計歳入歳出決算の概要についてご説明申し上げます。

決算書については、401ページからとなっております。

まず、決算書403ページの歳入総額8,380万3,935円に対しまして、決算書405ページの歳出総額につきましては同額でございます。歳入歳出差し引き額については、0となっております。

筑紫地区介護認定審査会事業につきましては、筑紫地区での共同設置となっております、4市1町の負担金で運営しております。

歳入の主なものにつきましては、408ページ、1款1項1目の認定審査会共同設置負担金といたしまして、4市1町より8,124万8,935円の収入をいたしております。

また、同ページの4款1項1目介護保険事業費補助金252万円につきましては、国庫補助金として受け入れておりまして、介護保険制度改正に伴うものでございます。

次に、歳出の主なものといたしまして、410ページの1款1項1目の一般管理費につきまして4,384万7,935円となっております、この主な内容といたしましては、事務局職員の人件費及び介護認定システムに係る経費でございます。

同ページの1款2項1目の認定審査会費は3,995万6,000円となっております。内容につきましては、認定審査委員の報酬並びに費用弁償でございます。

以上で歳入歳出の主な項目についてご説明を終わりますが、この筑紫地区介護認定審査会は、平成17年度と平成18年度の2か年につきまして本市が担当市ということでございます。今後も筑紫地区の認定審査事業の効率かつ適正な運営を目指しまして、努力してまいりたいというふうに考えております。よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

~~~~~

日程第 6 認定第 6 号 平成 17 年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算  
認定について

委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第 6、認定第 6 号「平成17年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算について」説明を求めます。

市民生活部長。

市民生活部長（関岡 勉） 認定第 6 号「平成17年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について」ご説明申し上げます。

決算書373ページから387ページをご参照願います。

平成17年度の歳入歳出決算につきましては、歳入が3,654万5,801円、歳出が3,635万584円となっておりまして、差し引き19万5,217円の繰り越しとなっております。

対前年度比では、歳入で62.3%、歳出で64.5%といずれも増額となっております。決算額が増額になりましたのは、日本郵政公社の要請により、住宅新築資金等貸付金に係る簡易生命保険資金の一部1,674万414円を繰上償還したことが主な理由であります。

今後の滞納解消に向けた取り組みといたしましては、昨今の景気の動向を反映して依然として厳しい社会状況の中にあつて、特に滞納者の方々も経済的に厳しい状況にありますが、総務部特別収納課と連携して、滞納者への戸別訪問、夜間徴収等により個別対応を行い、滞納解消に努めてまいりたいと思っております。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます、説明を終わります。

~~~~~

日程第 7 認定第 7 号 平成 17 年度太宰府市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定
について

委員長（武藤哲志委員） それでは次に、日程第 7、認定第 7 号「平成17年度太宰府市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定について」説明を求めます。

建設部長。

建設部長（富田 譲） それでは、平成17年度太宰府市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定についてご説明申し上げます。

決算書のページで申しますと、389ページから399ページまででございます。

内容につきましては、高雄公園整備事業の推進のためでございます。約 2 haの用地を 4 年間、平成16年、平成17年、平成18年、平成19年で一般会計が購入するということでございます。

今回の公共用地先行取得事業特別会計につきましては、歳入歳出それぞれ決算額8,025万4,395円でございます。その部分を一般会計から繰り入れまして、歳出分償還という内容でございます。今回の認定内容についてご審議賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

~~~~~

日程第 8 認定第 8 号 平成 17 年度太宰府市水道事業会計決算認定について  
委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第 8、認定第 8 号「平成17年度太宰府市水道事業会計決算  
認定について」説明を求めます。

上下水道部長。

上下水道部長（古川泰博） 平成17年度太宰府市水道事業会計決算について補足説明をさせてい  
ただきます。

決算書 1 ページをお開き願いたいと思います。

まず、営業面でございますが、当年度の年間総給水量につきましては、前年度と比較いたし  
まして2.6%増の474万6,495m<sup>3</sup>、年間有収水量につきましては、1.9%増の453万3,999m<sup>3</sup>となっ  
ております。有収率につきましては95.5%でございますが、1日最大給水量につきましては、  
12月31日の1万5,336m<sup>3</sup>を記録いたしております。年度末給水人口につきましては5万2,057人  
で、普及率につきましては77.7%となっております。これら業務量の前年度比較表を 6 ページ  
に載せておりますので、ご参照いただきたいと思います。

次に、建設改良につきましては、配水設備において配水管布設工事13件、下水道工事等に伴  
う配水管布設替工事 4 件、ほか三条台配水池改良工事等 7 件を施工いたしました。建設工事の  
概況につきましては 4 ページ、それから 5 ページに掲載をいたしております。

次に、経理面でございますが、当年度の収益的収支におきましては、収入総額は11億  
2,304万9,583円で、前年度と比較して給水収益の増及び新落合浄水場用地の一般会計への売却  
によります特別収益の発生により、1億1,135万7,545円、11.0%の増となっております。

一方、費用総額につきましては11億7,247万8,118円で、海水淡水化施設の稼働に伴います受  
水費の増や新落合浄水場構築物等撤去費及び除却費としての特別損失の発生により、前年度と  
比較して8,889万3,995円、8.2%の増となりました。この結果、損益収支において4,942万  
8,535円の純損失を生じ、平成16年度に引き続き赤字決算となり、前年度繰越利益剰余金で補  
てんをさせていただきました。

収益的収支の前年度比較につきましては 7 ページ、損益計算書については14ページに掲載を  
いたしております。ご参照いただきたいと思います。

なお、17ページの剰余金処分計算書（案）では、当年度未処分利益剰余金3億8,402万902円  
について、平成17年度の純利益を生じておりませんので減債積立金への積み立てを行わず、全  
額翌年度繰越利益剰余金とする案を提出いたしております。

次に、資本的収支におきましては、収入総額は8億9,911万2,227円で、前年度と比較して主  
に加入負担金の増及び国債の満期に伴います固定資産売却代金の発生により、5億9,656万  
5,943円の大幅増となっております。

一方、支出総額は6億5,030万5,011円で、前年度と比較して1億8,763万2,562円の減となりま

したが、これは前年度の大佐野浄水場改良工事が完了したことや、平成18年度への繰り越し事業が発生したことに伴います建設改良費の減によるものでございます。

なお、資本的収支差益2億4,880万7,216円につきましては、損益勘定留保金に戻しております。

以上で平成17年度水道事業会計決算概要の補足説明を終わらせていただきますが、決算審査意見書をご参照の上、よろしく認定賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

~~~~~

日程第9 認定第9号 平成17年度太宰府市下水道事業会計決算認定について

委員長（武藤哲志委員） 次に、日程第9、認定第9号「平成17年度太宰府市下水道事業会計決算認定について」説明を求めます。

上下水道部長。

上下水道部長（古川泰博） 平成17年度太宰府市下水道事業会計決算の概要について補足説明をさせていただきます。

決算書1ページをお開きください。

まず、営業面でございますが、当年度の有収水量は581万5,887m³で、前年度と比較して1.7%の増となっております。これは、1人1日平均水量にいたしますと、253ℓとなります。前年度末水洗化人口は、前年度より0.9%増の6万3,078人、行政区域内の人口に対する普及率は94.2%となっております。これら業務量の前年度比較表を5ページに載せておりますので、ご参照いただきたいと思います。

次に、建設改良につきましては、総額2億7,329万8,465円を投じ、汚水管渠及び雨水管渠の整備に努めてまいりました。汚水管渠は5件、1060.05m、4.1haを整備し、整備面積は当年度末累計で1,263ha、整備率86.9%となっております。なお、汚水管渠3件、雨水管渠2件について平成18年度繰り越しております。建設工事の概況につきましては、4ページに掲載をいたしております。

次に、経理面でございますが、当年度の収益的収支におきましては、収入総額は16億6,575万3,979円で、前年度と比較しまして、主に一般会計補助金の減によります5,524万8,505円、3.2%の減収となりました。

一方、費用総額は16億1,839万7,925円で、前年度と比較して企業債支払利息の減によりまして4,714万6,248円の減となりました。この結果、損益収支において4,735万6,054円の純利益を生じ、154億円余りの企業債償還への充当財源として確保することができました。

収益的収支の前年度比較につきましては7ページに、損益計算書につきましては14ページに掲載をいたしております。ご参照いただきたいと思います。

なお、17ページに剰余金処分計算書（案）で、当年度末処分利益剰余金1億281万4,365円のうち、減債積立金として前年度純利益5,545万8,311円全額を積み立て、翌年度繰越利益剰余金

を4,735万6,054円とする案を提出いたしております。

次に、資本的収支におきましては、収入総額12億3,153万9,150円で、前年度と比較して国債の満期に伴います固定資産売却代金の発生により、2億4,273万9,270円の増となりました。

一方、支出総額は15億4,061万9,782円で、前年度と比較して7,747万3,302円の増となりました。これは事業繰り越しに伴います建設改良費が減少したものの、企業債償還金の増によるものでございます。

なお、資本的収支で不足します額3億908万632円につきましては、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額526万8,733円及び過年度分損益勘定留保資金3億381万1,899円で補てんをいたしております。

以上で平成17年度下水道事業会計決算概要の補足説明を終わらせていただきます。決算審査意見書をご参照の上、ご認定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

委員長（武藤哲志委員） 以上で説明を終わりました。

議案配付時と本日の本会議に資料要求書が添付されておりまして、9月5日午後1時まで資料要求があれば各委員提出をお願いいたします。

なお、質疑については9月20日及び9月21日の決算特別委員会で行います。

~~~~~

委員長（武藤哲志委員） 本日はこれもちまして散会します。

散会 午後0時02分

~~~~~